

## 平成 27 年度 NGO 活動状況調査レポート

---

平成 27 年度の NGO 活動状況調査は、平成 28 年 1 月 24 日（日）から 30 日（土）までの 7 日間、賛助会員等 8 名をスリランカ民主社会主義共和国に派遣し、NGO 海外援助活動助成及び旧国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けている「スリヤールワ スリランカ」、「特定非営利活動法人パルシック」の 2 団体の活動状況調査を実施しました。

### 「スリヤールワ スリランカ」の活動地訪問

「スリヤールワ スリランカ」は、平成 11 年度から平成 21 年度までに 10 回、旧国際ボランティア貯金の寄附金配分受け、農村女性の自立のための職業訓練所や、津波被災者のための託児所の建設及び運営を、平成 25 年度からは当財団の NGO 海外援助活動助成を受けて、津波被災者のための託児所の建設及び運営指導等を行っています。

訪問したスリヤールワ スリランカ センターは、コロンボからハンバントタまで 260 km、そこから車で 30 分程度行ったところに位置しています。現在託児所には 96 名の園児が通園しており、ちょうど託児所に到着した毎朝 7 時 30 分ごろに、3 輪車やバイクに乗り合わせて通って来ていました。

朝の朝礼を見学させていただきましたが、お祈りから始まり、シンハラ語、タミル語、英語を交えつつ、約 30 分行われていました。この託児所では英語の教育もしていることから、小学校へ上がったからの成績が良く、エリアナンバーワンとまで言われるようになったということです。

朝礼後に授業を見学しましたが、その子どもたちも元気に、また積極的に勉強しておりました。今回お土産として折り紙を持参していたので全員で一緒に折りましたが、年長さんでも少々難しかったようです。その後子どもたちの踊りで歓迎を受け、また父母からはお祝い事に欠かせないという沢山のお菓子もいただきました。



### 「特定非営利活動法人パルシック」の活動地訪問

「特定非営利活動法人パルシック」は、平成 17 年度から平成 23 年度までの間に 7 回、旧国際ボランティア貯金の寄附金配分を受け、東ティモール及びスリランカにおいてコーヒーや紅茶の農業技術指導や内線被害を受けた学校に対する住民参加型の修復支援を実施。また平成 27 年度には当財団の NGO 海外援助活動助成を受け、スリランカにおいて有機紅茶栽培を実施しています。

今回はデニヤヤの有機紅茶栽培農家を訪れ、その後コンポストセンターへ向かいました。デニヤヤは南部の内陸に位置し、近くにはシンハラジャ森林保護区があります。このコンポストセンターは、平成 27 年度 NGO 海外援助活動助成の助成金で建設されたもので、看板にその旨の記載もありました。

現在このコンポストセンターには 5 頭の雌牛がおり、ミルクはヨーグルト工場に販売し、糞尿は発酵させ液肥にして、さらにバナナの茎を混ぜるなどをし肥料にしてから、有機紅茶栽培農家に販売しています。将来的には、発酵時に出るメタンガスも活用していきたいとのことでした。

一度農家に戻った後、今度は茶摘み体験もしました。茶畑には胡椒等も混植されていて、収益の向上をはかっているそうです。

茶摘み自体は、黄緑色の柔らかい茶葉を指で横にすると簡単に摘み取ることができましたが、大きな麻袋には茶葉がおよそ 20kg 入るとのことで、重労働の大変さが伝わりました。

次に有機栽培専用の紅茶工場を見学しました。ここには摘み取られた茶葉が持ち込まれ、萎凋、揉捻、篩い分け、発酵、乾燥までを行い、その後パック化する工場へと送り出されます。残念ながら時間がなく試飲はできませんでしたが、普段何気なく口にする紅茶に、こんなに手間がかかっていることを初めて知りました。



スリランカは 2009 年に民族紛争が終結して以降、経済成長が進み、観光客も大幅に増加しているとのことです。政府も成長に力を入れていますが、細かいところの対応は不十分と言えるため、NGO のきめ細かく、住民が本当に必要としているものを支援するという活動を継続していくことが大切であり、こうした NGO を資金面から支える事業の意義も再認識しました。